

オーナー様各位

エアロテックの上手な使い方 夏の節電協力について

東日本大震災による福島原発事故をうけ、東京電力管内の企業やご家庭においては様々な節電協力が行われています。特に今夏は電力供給の不足も懸念され、全館空調「エアロテック」をご採用いただいているオーナーの皆様からも、設定の工夫でできるエアロテックの節電対応についてお問合せを頂戴しています。

今回、冷房運転の使用を開始されている皆様へ、機器設定などによりご家庭でご協力頂ける節電対策についてご案内します。

まずはじめに、よくお問合せのある疑問にお答えします。

Q

夏の電力不足、全館空調を使用しても大丈夫？

A

今夏、電力消費ピーク時間の電力不足を回避するため、節電に対する意識がとて高まっています。このピーク時間ですが、1 日の中で真夏の最高気温になる午後 2 時頃が最大の電力消費量になると言われています。これは家庭用のエアコン利用も大きく影響していて、気温や湿度の高さもピークを迎えるこの時間帯は、室内の快適を保つ為にご家庭や職場で、エアコンを ON にしたり、設定温度を他の時間帯よりも低く設定してしまう事になるからだと考えられます。

エアロテックの家は、まず高い断熱・気密性能の住宅とすることで、できるだけ冷房を使わないですむ構造となっています。また、住宅全体で冷房することで空気の温度だけでなく、壁、天井、床等も同じような温度にしながら除湿もするので、あまり設定温度を低くしなくても冷房時の消費電力を抑えることができます。さらに、基本的には ON/OFF の運転をしないので、個別エアコンのように消費電力のピークがでにくくなっています。

このことから、エアロテックを採用した三菱地所ホームの住まいは外気温の変化に大きく影響を受けず、消費電力のピーク時間を作らないというメリットがあります。

このように、エアロテックの住まいは省エネルギー性能の高い住宅ですが、皆様の上手な使い方の工夫によりさらなる節電協力も可能です。

「エアロテック」節電の工夫

夏期の節電の工夫

夏の暑い盛りを前にして皆様からお問合せいただく内容で多いのは、「節電するにはどうしたらよいか?」というようなものでした。

今回のご案内では、基本的な設定でできる節電の工夫をご案内します。

1 設定の工夫

① 家全体の温度を通常の設定温度より 1～2℃高く設定する

例：全室 27℃設定 → 28℃に設定する

モデルプランでシミュレーションした結果、設定温度を 1℃上げる事で真夏の1日の消費電力量を約 10%削減できるという結果がでています。

② 通常あまり使用しない部屋の設定温度をさらに上げる

例：使用していない来客用の和室などを常時最高の31℃設定にする。または、「キープ」機能がある場合はキープ運転を活用。



※「キープ」機能は上写真形状のルームコントローラーの場合についています。

③ 日中使用しない部屋は、風間の設定温度をさらに上げる

例：寝室の温度を最高の 31℃設定にし、就寝する数時間前に 28℃～30℃に下げる。または、「キープ」機能がある場合はキープ運転を活用。

気温の下がる夜間であれば、温度設定を下げても風間ほどの電力を使わずに早く室温を調整することができます。

④ 不在にされる場合は設定温度を高めにするか、換気運転のみとする

例 1：旅行等で 2～3日不在にする場合は、全室の冷房温度を最高の 31℃にする。

設定温度を高め冷房にしておくと帰宅時のもわっとした感じがなく、ある程度さわやかな室内環境を保つことができます。

例 2：1週間以上不在にする場合は、換気運転をおすすめします。

ただし例 1の帰宅時のように、ある程度さわやかな室内環境をご希望される場合は、設定温度を高めにした冷房をおすすめします。

❗ お願い

もちろん、換気運転を OFF とすれば消費電力量をさらに減らすこともできますが、室内の空気を循環させてカビやダニの発生を防ぎ、ダクト内に空気を流すことで内部にホコリや粉塵が溜まったりカビが発生するのを防ぐため、不在の場合でも必ず換気運転はご使用くださいますようお願いいたします。

2 その他の工夫

① ご家族の体感温度はそれぞれです。設定温度を上げて暑さを感じる場合は扇風機の併用も効果的です。直接体に風が当ることによって 1℃～2℃程度設定温度を上げて、同等の涼しさを感じることができます。

② 夏期は、いかに日射熱を室内に入れないようにするのがポイントです。時間帯ごとの採光を考慮しながらカーテンを閉めたり、大きな開口部の外によしず等を設置して直接入り込んでくる日射を遮るなどの工夫も効果的です。

❗ ご注意ください

節電時には多少の我慢が必要ですが、すでに普段から 28℃～31℃設定温度でお住まいの場合、節電のために無理な我慢をして機械本体の運転を止めるなどすると、熱中症や脱水症状等健康上の被害を起こす心配もありますので、ご家庭の状況に合わせた工夫で節電にご協力ください。